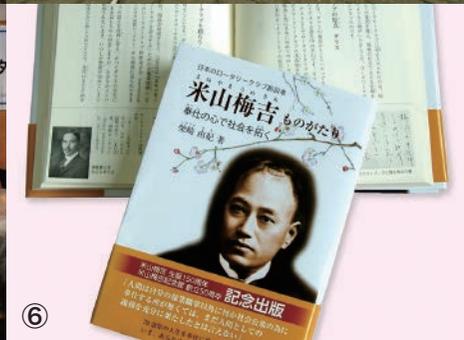
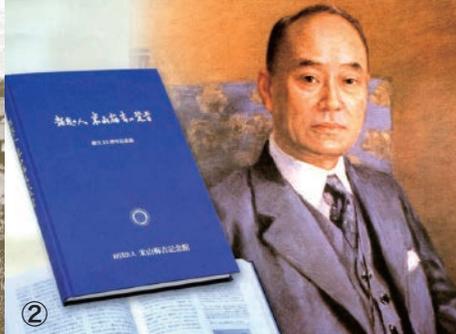
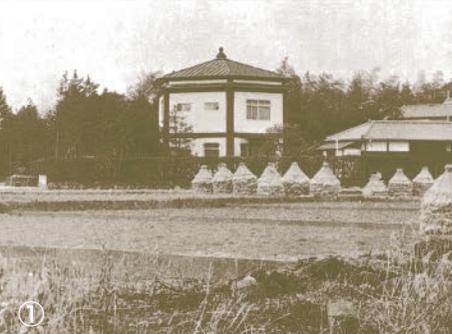


2020 春号 Vol.35



おかげさまで50年

創立50周年記念式典が開催されました。

創立50周年を迎えて

公益財団法人 米山梅吉記念館
創立50周年実行委員会

実行委員長 井上 雅雄 (甲府南RC)



公益財団法人米山梅吉記念館は、令和元（2019）年9月14日、多くのご来賓、ロータリアンのご出席を賜り、創立50周年記念式典を挙行し無事終了することができました。実行委員長として心より御礼申し上げます。

当日の登録者数は723名でしたが、ご招待の皆さまを合わせますと800有余名に及ぶ方々にお集りいただきました。

米山梅吉記念館は、昭和44（1969）年3月26日、財団法人米山記念館として設立し、同年9月16日、記念館建物を完成させ、その時から今日まで50年が経過いたしました。今、旧館といわれる建物は現在米山文庫・こども図書館として地域の皆様が親子で訪れる憩いと情報交換の場として親しまれております。

そして、現在の記念館は、数多くの先人の努力と米山家のご厚意により、平成10（1998）年4月28日、落成の運びとなりました。

そのような歴史に思いをはせ、創立50周年を迎えるにあたり、平成29（2017）年に、50周年記念の諸行事、記念事業のための実行委員会を組織いたしました。

記念事業として柴崎由紀氏著『米山梅吉ものがたり』（銀の鈴社刊）というすばらしい本が完成しました。そして、手狭になりました記念館資料室拡張のための書庫の新築・建設計画、記念館バッジの作製、『米山梅吉遺しし言の葉』の刊行、記念式典並びに懇親会の設営等々、総予算7,500万円を見積り、その寄付のお願いも始めました。早速、地元第2620地区3,000人のロータリアンのご賛同とご寄付の開始をしていただきました。

また、米山梅吉翁が創立された第2580地区東京ロータリークラブからは2,000万円のご寄付を頂戴

し、さらには、多くのガバナー事務所、ロータリークラブ、個人など、全国ロータリアンの心のこもったご寄付もあわせ、ほぼ目標達成のメドも立っており、深く感謝申し上げます。

記念式典に於いては、ロータリー米山記念奨学会学友で、元国立故宮博物院・院長、現在は、（財）国家文化芸術基金会・理事長に就いておられます林 曼麗様に記念講演をしていただきました。ロータリー米山記念奨学会の皆様方には、この講演にむけて大変お世話になりましたことを感謝申し上げます。

記念講演Bでは、「映像で綴る米山梅吉の足跡」を担当委員会が各方面から映像データをお借りして創り上げていただきました。

そして、女優の大塚良重さんには「魁の人 米山梅吉」のひとり語りをしていただき大きな感動を呼びました。これらのシナリオのベースは、先に刊行された、井口賢明著『米山梅吉の発音』、このたび出版の『米山梅吉ものがたり』、その他です。お二人が集大成されたこの著書は、これからも日本のロータリーの歴史と米山梅吉の生い立ちを知る上で大変貴重なものです。ぜひ、皆様にもご一読いただけたら幸いです。

最後に、実行委員会の委員として献身的にご奉仕いただきました、第2620地区米山梅吉記念館運営委員の皆様にご感謝し、心より厚く御礼申し上げます。殊に地区米山委員の方々が心血を注いでご尽力くださいましたことをご報告申し上げます。

どうぞ、これからも公益財団法人米山梅吉記念館のために、絶大なご支援、ご奉仕を心からお願い申し上げます。

創立50周年にあたり

公益財団法人 米山梅吉記念館
理事長 積 惟貞 (沼津RC)



米山梅吉さんは終戦後間もなく日本のロータリー復活を見ることなく他界されましたが、終の棲家として晩年を過ごされた長泉の広大な別邸の敷地は、昭和40年頃には分譲され人手に渡ることになりました。伝え聞いた地元のロータリアンが別邸保存運動を、そして記念館建設へと駆り立てられてまいりましたが、別邸の保存はすでに不可能でした。そこで何とか少年期を過ごした米山家の本邸跡を譲り受け念願の米山記念館が建てられました。今から50年前のことです。六角形の法隆寺の夢殿に似た外観の潇洒な建物となりました。(現在の記念館隣に米山文庫・こども図書館として長泉町に委託運営され長泉RCがお世話しているのがその建物です。)

当時、地元のロータリアンたちは、ロータリーとしての米山さんに直接の薫陶を受けなくても、高名な米山さんを知らぬものではなく、中には米山ご夫妻の仲人で結婚した者もあり、記念館設立にかける先輩たちの情熱は相当なものであったと思われます。

昭和54年米山梅吉さんのご子息が他界され、遺族から記念館に隣接する土地の譲渡の申し出があり、再び東京RCなど全国のロータリアンのご協力を得てその土地を取得出来ました。もともと先の米山記念館は狭隘で集会などを開くことができないので、クラブ単位の集団の来館者のためにも更なる発展性を考慮して現在の米山梅吉記念館を建設、平成10年4月28日には落成して現在に至ります。

この建物には学芸員1名が常在するようになりましたが、会館の維持管理、庭の整備、館報の制作と発送、来館者の対応等すべて近隣ロータリークラブからの労力提供で行われてまいりました。

一時は新館と呼ばれてきたこの記念館も20年以上経過しますと、老朽化が一挙に進み、雨漏りや部屋の照明、エアコン、自動ドアなど機器の故障などが多発し、その交換などが喫緊の課題となりました。そのうえ展示場も20年前のままとなっておりますので、この

50周年を機に、何とか改善して皆様に提供したいと念願するに至りました。

そこで、この50周年を機に記念館の新たなスタートを飾るべく、令和元年9月14日「米山梅吉記念館創立50周年記念式典」を三島市の東レ総合研修センターのホールをお借りして挙行了いたしました。

キーノートスピーチには元米山奨学生で台湾の国立故宮博物院の院長も務められた林曼麗氏の「米山梅吉論」を拝聴し、それに米山記念館地区委員が苦労して編纂したドキュメント「米山梅吉の登音」が続きましたが、女優大塚良重さんの「ひとり語り」や運営委員数名が直接舞台に立っての演技は見事でした。

式典と同時に、柴崎由紀著『米山梅吉ものがたり』、記念館からは神崎、小林両会員の編纂による『米山梅吉遺しし言の葉』を発刊し、公募した記念館のシンボルマークもピンバッジに採用されました。

また、ポール・ハリス来日の際、米山梅吉と植樹された「月桂樹」3世の苗木を希望する全国のクラブなどにお分けしました。

さて、記念行事として残されたものに、米山梅吉収集による膨大な量の書籍の保管庫建築があります。

50周年の記念行事はそれですべて終了しますが、記念館の将来を考慮して地元だけでなく、全国のロータリアンに知っていただき、一度は訪れていただきたいと強く希望いたしました。理事、評議員の枠を広げ全国からご参加いただくようにしたのも、その思いの一環であります。従来通り直接の維持管理には地元ロータリアンのお力を引き続きお借りするにしても、今まで以上に全国に記念館の賛助会員を広め、記念館の応援をいただくとともに、記念館からも主として米山梅吉翁を顕彰することはもちろん、翁がかつて抱いたロータリーに対しての情熱と展望をもとにロータリーに関する情報発信を行い、その存在価値を保っていききたいと思っています。



記念式典プログラム

令和元年9月14日(土)14:00 於 東レ総合研修センター(静岡県三島市)

1. 記念式典

主催者挨拶 創立50周年記念実行委員会
 実行委員長 井上雅雄
 理事長挨拶 公益財団法人米山梅吉記念館
 理事長 積 惟貞
 来賓挨拶 ●R1第2620地区
 ガバナー 安間みち子様
 ●(公)ロータリー米山記念奨学会
 理事長 斎藤 直美様
 ●長泉町
 町長 池田 修様
 ●東京ロータリークラブ
 会長 竹中康一様
 表彰 米山梅吉賞・特別功労賞
 役員功労賞・功労賞
 職員功労賞
 記念ピンバッジデザイン優秀賞披露

2. 記念講演A

演題 「己欲立而立人 己欲達而達人
 -米山梅吉の価値観について」

講師 林 曼麗氏

3. 記念講演B

映像で綴る米山梅吉の足跡
 「米山梅吉の登音」
 ひとり語り 「魁の人 米山梅吉」
 女優 大塚良重氏

4. 懇親会



東レ総合研修センター会場



式典を控え会場設営





講師お出迎え



台湾からもご出席



主催者挨拶



井上雅雄 50周年実行委員長



積 惟貞 米山記念館理事長

来賓挨拶



第2620地区
安間みち子ガバナー



米山奨学会 斎藤直美理事長



長泉町 池田修町長



東京ロータリークラブ
竹中康一会長

表彰



米山梅吉賞



特別功労賞



功労賞



ピンバッヂデザイン優秀作品賞



記念出版感謝

『米山梅吉ものがたり』
著者 柴崎由紀氏

己欲立而立人 己欲達而達人 — 米山梅吉の価値観について

講師 林 曼麗

ご来場の皆さま、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました、林曼麗と申します。このたび、米山梅吉記念館創立50周年の式典の記念講演の講演者としてお招きいただき、誠に光栄に存じます。

まずはじめに、論語の一節を中国語で読ませていただきます。

中国古籍《論語・雍也第六》。

子貢曰、如有博施於民而能濟衆、何如。可謂仁乎。子曰、何事於仁。必也聖乎。堯・舜其猶病諸。夫仁者、己欲立而立人、己欲達而達人。能近取譬、可謂仁之方也已。

子貢（しこう）は師にこう尋ねました：

「もし人々に施しを行い、豊かにし、多くの災難から民衆を救えたとしたらどうでしょう、仁者といえますか」

孔子は、以下のように答えました。

「それは仁者どころの話では無い。それは聖人の領域だ。古代の聖帝である堯・舜もその事に苦勞された程だ。仁者というのは、自らが立ちたいと思えば他人を先に立たせ、自らが行きたいと思えば他人を先に行かせる。常に他者を自分の様に考える。それが仁者の考え方というものだ。」と。

「博施濟衆。己欲立而立人、己欲達而達人」とは、「自分の様に常に他者のことを考える」という意味です。今日は、2500年前の孔子の言葉を引き合いに、スピーチを進めさせていただきます。

さて、幕末から明治に突入した1868年に、米山梅吉は生まれました。新旧の体制が大きく交替した、激動の時代の幕開けです。そして、太平洋戦争が終わった翌年の1946年に、米山氏は永眠。丁度、私が生れる8年前のことです。米山氏と私は異なる世代であり、

さらに言えば、国籍も、性別も、専門分野も違います。このように一見交わることのない2人ですが、記念館の創設50周年という晴れの日に、こうして



ロータリー米山記念奨学会の元奨学生として招待を受け、皆さまの前でお話でき、なんとも不思議な気持ちであると同時に、実に意義深いものだと感じております。

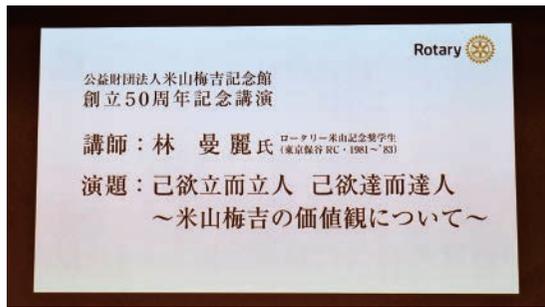
1978年から1988年にかけて、日本に留学した10年の月日は、私の人生において最も輝かしい10年であります。この期間、私は東京大学の大学院修士課程を修了し、博士号を取得しただけでなく、結婚をし、二人の子宝にも恵まれました。日本と私との間で強い絆が結ばれた、そんな10年であったと思います。日本という国は、単なる留学先ではありません。生涯を通じて、欠かすことのできない、かけがえのない存在（友人）なのです。

1981年から83年まで、10年にわたる留學生生活のうちの計3年もの間、私は私費留學生を対象とした貴奨学会の支援を受けることができました。ご周知のとおり、日本初のロータリークラブを創設した米山梅吉氏は、日本ロータリーの父と呼ばれております。米山氏を記念すべく、1967年よりはじまった財団法人ロータリー米山記念奨学会は、日本最大規模の民間国際奨學事業であり、今も日本全国のロータリアンからの寄付金をもとに運営されています。

米山奨学金の特長と言えば、世話クラブとカウンセラーがあげられます。奨學生一人ひとりに、各地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、また世話クラブのロータリアンの一人が奨學生の個人的ケアに付きまします。このように、日本での留學生生活が心豊かなものになるよう、心の通った交流と支援をしているのです。

私が育児に追われながらも、無事に博士号を取得できたのも、ひとえに米山奨学会の支えがあったからです。奨学金のおかげで安心して勉學に励むことができ、経済的にも精神的にも、ほっと一息つける拠り所を与えてくれました。私の青春そのものであった留學生生活にもたたくしてくれたものは、決して物質面での支援だけではありません。日本社会との確かな繋がりを築けたことは、何物にも代えがたい貴重な体験です。

当時私がお世話になったクラブは、東京保谷クラブです。カウンセラーは小林先生です。本日は、小林先生のご家族もご臨席されております。このような機会に再会



できたことを心より嬉しく存じます。

月日が過ぎるのは実に早いものです。留学を終え台湾へ戻ってから、早30年が経ちました。この間、仕事の関係で、世界各国を訪れては、数多くの文化交流を推進してきましたが、やはり諸外国と比べ私にとって日本は最も思い入れのある国です。物理的に離れていても、日本の恩師、同窓や友達との関係は、30年経っても色褪せず、むしろ、より親密さは増す一方です。また学生時代に築いた絆が起点となり、人と人との縁はより拡がりを見せ、台湾と日本における国際交流を行う上でも、信頼関係をベースとした繋がりは、大きな一助となっております。学術、アート、文化といったさまざまな交流を円滑に進められるのも、相互理解が深まり、互いを尊重しあっているからだといえます。

そしてこれこそ、100年前より米山氏が唱えた精神そのものだと兼ねてより感じております。米山氏は文化、民族、国籍の垣根を超えた友愛の精神をもって、信頼関係を築くことの大切さを訴えました。人と人との間にある信頼関係こそ、他者貢献に欠かせない最も重要な基礎だといえるでしょう。

私にとって、米山梅吉は激動の時代を駆け抜けた先駆者であり、脈動する時代の流れをいち早くキャッチした先見の明を持った人です。もっと見識を広めたいと、二十歳のときにあらゆる困難を乗り越えてアメリカへ渡り、8年間の苦しい留学生活を送られました。在米中は、寝る間を惜しんで語学や教養を身につけ、人との出会いに恵まれ、そこで揺るぎない人生の礎を築かれました。後に帰国した米山氏は、財界で数々の業績を上げ、頂点にまで上り詰めましたが、1914年に「新隠居論」を発表したことを機に、米山氏は公共益に資する活動に価値を見出し、社会奉仕の道に邁進していきます。

生涯を通じて、自ら掲げた理念・理想を実践に移した米山氏は、東京ロータリークラブの創始者であると同時に、三井信託株式会社を立ち上げ、同会社の代表取締役と会長、財団法人三井報恩会の理事長も務め

あげました。また、私財を投げ打って財団法人緑岡小学校（現、青山学院初等部）と緑岡幼稚園（現、青山学院幼稚園）を開校するなど、その活動は優れた経営者・実業家にとどまらず、社会貢献活動にも積極的に取り組む篤志家でありました。米山氏は「利他」そのものを目的に捉え、その価値を生き甲斐とされました。また、私になによりも深く敬服する点は、やはり目標をブレることなく持ち続け、それを有言実行されたことです。今日ここにご参集いただいている皆さまも、きっと米山氏の足跡や生き様に精通されていることと存じます。

米山氏が最も活躍された時代から約100年が経った今、グローバルな環境の変化、そしてテクノロジーの発展に伴い、通信ネットワークもより便利なものとなり、人と人の距離もぐっと近くなりました。何週間もかけて海を横断し、船舶での移動手段しかなかった米山氏の時代と比べ、私たちは今、スピーディーに伝達し合い、互いの場所を行き交うことが可能となりました。ITやAIなどで物理的距離、そして時間・言語の壁が低くなったことで、よりコミュニケーションは取りやすくなったことは言うまでもありません。

しかし利便性の高い情報サービスは、人々に真の幸せと平和をもたらしてくれたのでしょうか。残念ながら、実際は距離感がつかめなくなっているところか、貧富の格差は拡大する一方で、経済大国同士の貿易摩擦は世界経済の行方にも、大きな悪影響を及ぼしています。さらに言えば、貧富はテロの引き金となっています。また私たちは、環境保全・自然と共生するための挑戦にも取り組んでいかなければなりません。

ではなぜ、私たち人類はこのような難局を迎えてしまったのでしょうか?なぜ、科学の進歩と経済の繁栄だけでは、真の幸せ、そして平和をもたらすことができないのでしょうか?

これらの問いは、中国の古典『論語』の言葉に帰結すると思います。それが、最初私が冒頭で読み上げた一節です。

すなわち「自らが立ちたいと思えば他人を先に立たせ、自らが行きたいと思えば他人を先に行かせる。常に他者を自分の様に考える」という教えです。2500年前より、古代の賢者は「常に他者を自分のように考える」ということを唱えています。これは言い換えれば「自利・利他」の精神です。利他の実践がそのまま自分の幸せであり、公を利することが自身を利することであるというものです。公益との調和を重んじ、社会奉仕をひっせいで生るモノ

ットーとした米山氏は、そんな初志を貫いた人でした。

幕末から明治に移り変わる年に生まれた米山氏ですが、映雪舎という小学校で漢学を学び、1881年（明治14年）に、沼津中学校に進学。漢籍はもちろん、英語で書かれた『万国史』も読んでいたと言います。欧米より新しい学問や思想が次々と紹介されたことで、日本でも人権や自由が盛んに主張されるようになっていった時代です。米山梅吉はそんな時流のなかで、中国古代より伝わる教えに幼少期より触れ、新しい西洋の自由民主主義や民権論を自身の学問に取り入れ、さらにはアメリカへ赴き、見聞を広めました。米山氏は東西問わず、双方の知を身に付けていったわけですが、特に公益的事業を推し進めるうえで、聖賢の語録は彼の信念の根幹を支えたに違いありません。

また1920年に、米山氏によって創設された日本初のロータリークラブ東京ロータリークラブの理念も、それに基づいたものです。ロータリークラブの公式標語に超我の奉仕（Service Above Self）という言葉があります。Serviceとは奉仕であり、相手のことを思い、考えて行動すること。その原点にあるのは文化、国籍、民族、階級の隔たりを超えた、人と人之间にある、純粹たる友愛と寛容です。またその友愛と寛容から生まれた信頼関係があつてこそ、真の世界平和とより良い暮らしが望めるのではないのでしょうか。先ほども申し上げたように、科学の発展と経済の繁栄は、世界平和、ないし人類の本当の幸せをもたらしてはくれません。令和の時代こそ、古代の聖賢が論じた「自利・利他」の精神、約100年前に米山梅吉が既実践された社会奉仕をもう一度見直し、提唱していかなければならないのです。

これまで、米山梅吉の生き様と中核的価値観についてお話を進めてきましたが、続けて私自身の観点から、米山氏が成し遂げた事蹟の中から、特に次の3点を取り上げたいと思います。

初めに、米山梅吉は69才の時、日本の将来を担う優秀な人材の育成を目指して緑岡小学校（現、青山学院大学初等部）を設立しました。その緑岡小学校の校訓には次のように書かれています。

「人からされて嬉しかったことは、人にもそのようにしなさい。人からやられて嫌であったことは、人にもしてはいけない。」それは、奇しくも論語の「己所不欲 勿施於人（自分が人からして欲しくないことは、人にしてはならない）」「己欲立而立人 己欲達而達人（自分が立ちたいと思えば、同じように周りの人を立たせようと努め、自

分が実現しようと思えば、同じように周りの人も実現させてあげ）」といった教えと同じものであり、「利他」の精神の表れだと言えます。

米山氏は半生を「利他」の精神の実践に注力してきましたが、晩年はそこからもっと踏み込み、根本的な人格育成や人材育成を行うため、初等教育の中で「利他」の真髓と精神を育んでいこうとしたのです。

米山氏は経営者、実業家からキャリアを積み、社会福祉に貢献する慈善活動家に転身し、最後は教育に生涯を捧げました。まさに時代を牽引した先覚者であり、先を見通す力のある教育家でもありました。言うまでもなく、教育とは長期的視野にたった雄大な計画であり、優秀な人材育成は、文化的な国家発展の基盤づくりそのものです。特に、豊かな人格形成を培う幼児・小学校教育は、教育制度のなかでも最も大切な役割を担っています。米山氏はその重要性にいち早く注目し、「利他」的精神をも校訓に取り入れ、また自らその理念を実践しただけでなく、次世代への継承のためにご尽力されました。社会に奉仕するという姿勢を後世に伝える、人格者だったと言っても過言ではないでしょう。「人づくり」こそ、国家が永続的に発展するうえで最も欠かせない基盤であり、その道筋の先にはじめて真の世界平和と豊かな暮らしがあることを、米山氏は知っていたのです。

次に申し上げたいことは、皆さまも既にご存知のように、米山梅吉は日本初のロータリークラブ・東京ロータリークラブの創設者であり、初代会長でございます。創設したのは1920年、当時米山氏は52才でした。今では、200以上の国や地域に3万5千のクラブがあり、ロータリアンと呼ばれるロータリークラブの会員は世界に120万人以上います。このように、国境や宗教を越える、奉仕の精神によって結ばれた実業家、ならび専門家の友愛の輪は、全世界に広がっていきました。もちろん台湾もその中に含まれています。1931（昭和6）年3月、米山氏は台湾にロータリークラブを設立するため、台北へ向かいます。3月27日、台北の鉄道ホテルで総会が開



かれ、「台北ロータリークラブ」を創設。その翌日、米山氏は台北の放送局で、ラジオを通じて「国際ロータリーの組織について」という題で話をされました。その内容は、翌月に発行された台湾日々新報で3回にわたって連載されたと言われております。

その後、台湾のロータリークラブがどのような歴史を辿ったのかは、私がロータリアンでないため、詳しくは存じ上げませんが、周りにロータリアンの親友や友達はたくさんいます。ロータリーの定例会に呼ばれてスピーチすることもしばしばあります。しかしもっと緊密な関係を築くようになったのは、国家芸術文化基金会の会長に就任してからです。

国家芸術文化基金会とは、国の芸術文化の発展をサポートするために、国の資金でつくった基金会です。当基金会の会長に任命された2004年、台湾におけるアート環境を資金面から整えるため、私は「国芸の友」を立ち上げました。その呼びかけに応じてくれた多くの会員が、ロータリアンだったのです。創設から十数年経った今も、台湾のアートグループや作家を支えるメセナとして、たくさんの方々の皆さまよりご支援をいただいております。本日、台湾よりはるばるお越しのロータリアンの方々の多くは、国芸の友の会員さまでもあります。遠くから駆けつけてくださった皆さまのご厚意に、この場を借りて心より感謝申し上げます。約100年前に米山梅吉が持った希望の種は、今なお大輪の花を咲かせ続けているのです。

今日のスピーチのために、米山梅吉について改めて少し勉強させていただきました。最後の3点目は、そのなかで、最も印象深かった米山氏の性格的特徴について触れたいと思います。彼が成し遂げた実績を振り返れば、米山氏が積極的かつ進取の気性に富んだ人、挑戦に果敢に挑んでいったイノベーターだったことをうかがい知ることができます。明治という新しい時代を迎えた日本に生まれ、海外へ飛び出し、それまで誰もやったことがないことでも、前向きに突き進んだその生涯は、何事にも意欲的に取り組む姿勢で貫かれていました。あらゆる困難にも負けず、幾度となく挫折を乗り越え、イノベーションを起しチャレンジし続け、自ら理想とする目標を達

成できたのも、人格者以前に、性格的特徴がそうさせたのだと深く感じました。

今年は、公益財団法人米山梅吉記念館創立50周年という節目の年です。1969年3月26日に記念館が財団法人として設立され、同年9月16日に、記念館の建物が竣工しました。目的は、「米山梅吉氏を記念するとともに、ロータリー文献を備え、さらに日本におけるロータリークラブの過去および現在の活動状況に関する資料を備え、ロータリー精神の普及を行い、もっと広く社会に貢献することを目的とする」と言うものです。

講演という素晴らしい機会をいただいたので、最後に長年博物館・美術館を運営してきた者として、僭越ながらご臨席の皆さまに、私の経験から基づく提案をもって、本日のスピーチの締めとさせていただきます。

一、知を創造する場、新しい価値を生み出す場

昔から博物館は伝統文化を学習する場、文化遺産の宝庫だと、多くの人々がそう捉えてきました。文化遺産とは人類の文明の貴重な資産であり、有形資産の保存、修復、收藏、研究は、私たち人類にとって当然の使命です。そして無形資産の価値や意義を広め、そこから新たな創造をする事は、文明発展の動力となります。

二、民衆的な空間への変容

人を主体にした考えは、私が博物館の運営に携わる際、常に重視してきたコアなる理念です。このような考え方は、伝統的な博物館の構造に、抜本的な改革をもたらしました。閉鎖された、いわば唯我独尊的な空間から、解放された民衆的な空間へと変わり、市民と博物館の距離はぐっと縮まりました。

三、閉ざされた箱から、解放された場に

「人」「美術館」「都市」の間で、21世紀現代社会における1つの全く新しい関係を生み出し、有機的な共同体を形成していく考えです。

以上3つのコンセプトが皆さまのご参考になれば幸いに存じます。最後に、米山梅吉記念館の次の50周年が、より活力とクリエイティビティに溢れることを期待し、またロータリーの精神が脈々と受け継がれるだけでなく、更なる価値を創出していけることを祈念しております。

林 曼麗 (Lin Mun-Lee) ロータリー米山記念奨学生 (東京保谷RC・1981-1983)

〈現職〉国立台北教育大学 芸術と造形デザイン学部教授 (1997.7~)、国立台北教育大学北師美術館館長 (2011.8~)、財団法人国家文化芸術基金会理事長 (2017.1~) 〈学歴〉国立台湾師範大学文學院美術学部卒業、東京大学教育学修士・芸術教育専攻〈経歴〉東京芸術大学客員研究者・台北市立美術館館長、財団法人国家文化芸術基金会理事長、国立故宫博物院院長 (2006~2008)、東京大学大学院教育学研究科教育学部客員研究者、平成30年度外務大臣表彰受賞。

映像で綴る米山梅吉の足跡 「米山梅吉の跫音」

■米山梅吉オープニング挨拶

第1章 米山梅吉の幼少期～渡米

第2章 三井銀行・三井信託時代

フロックコート、山高帽の米山梅吉(A)がステッキについて登場し一言述べる

第3章 三井報恩会による全国規模の社会貢献

第4章 青山学院の支援と緑岡幼稚園・小学校の建設

フロックコート、山高帽の米山梅吉(B)がステッキについて登場し一言述べる

第5章 東京ロータリークラブの創立

フロックコート、山高帽の米山梅吉(C)がステッキについて登場し一言述べる

第6章 文藻の人

=朗読劇導入=

■女優・大塚良重 ひとり語り『魁の人 米山梅吉』

=朗読劇終了=

■米山梅吉 終わりの挨拶



ウエスレン大学からマスター・オブ・
アーツの名誉学位を受ける(当時51歳)



机の後ろの額入り写真(初代社長米山梅吉)、
順次歴代社長の写真及び年表が展示されて
いる。



親交のあった佐佐木信綱氏



米山梅吉の著書の数々

制作にあたり資料、映像データの提供または取材、
インタビューなどのご協力をいただいた皆様です。

(順不同・敬称略)

青山学院資料センター、青山学院初等部、株式会社オオバ、RI
第2580地区・東京ロータリークラブ事務局、日本基督教団・銀座
教会、沼津教会、一般財団法人・三井報恩会、三井不動産株
式会社、公益財団法人・三井文庫、沼津市明治史料館、鉄道
博物館、松阪市郷土資料館、箱根登山鉄道株式会社、箱根町
立郷土資料館、三島市郷土史料館、紫波町、紫波町彦部公民
館、神山復生病院・復生記念館、国立ハンセン病資料館・国立
療養所松丘保養園、三井報恩会と旧西平内村の歴史を語り継
ぐ会、湯ヶ島温泉落合楼村上の各社の皆様、
ピアニスト・フジコ・ヘミング氏、『米山梅吉ものがたり』著者・柴崎
由紀氏、土居光華氏曾孫・赤塚邦代氏、『点描米山梅吉』著
者・谷内宏文氏。 以上



緑岡小学校当時を語るピアニスト フジコ・
ヘミング氏

ひとり語り

「魁の人 米山梅吉 あなたへ」

女優 大塚 良重



「米山梅吉の聲音」の幕間で「なりぎり梅吉」を演じたロータリアンと大塚良重氏の終演の挨拶



式典閉会



金子 信 氏(萩RC)



懇親会

米山梅吉記念館会場

米山梅吉の名の下に集った参加者は、北海道から沖縄・奄美、そして台湾まで800有余名となりました。米山梅吉の親族の皆さま、ロータリー関係者、米山奨学生や学友たち。また、梅吉の三井信託や三井報恩会、青山学院での活動を顕彰されている方々など、参加者各々の梅吉像を胸に抱き、この場に会しました。懐かしい再会では思い出話に花が咲き、新たな出会いでは驚きや発見もあり、たくさんの方々と貴重な時間を共有できました。

長泉町の米山梅吉記念館でも250名を超えるお客様を迎えました。初めて来館される方が多く、米山梅吉の事績を目にしてその人生に触れ、梅吉の偉大さを実感されているようでした。お墓参りをされた方は梅吉ゆかりの人との出逢いに想いを馳せ、手を合わせて行かれました。

当日お集まりいただきました皆さまをはじめ、参加は叶わなかったものの応援して下さった皆さまに深く感謝申し上げます。



米山梅吉記念館



遠方からのお客様をお出迎え



新たに設置された奨学会紹介の大型ビデオ



ロビーでも記念館の歴史を紹介



米山家親族の皆さま



初めて記念館を訪問される方々は、興味津々



梅吉翁のお墓参り



記念館隣接の米山文庫・子ども図書館の米山梅吉コーナー

来賓・招待者ご芳名

ご芳名は順不同・敬称は略させていただきます。

来賓

齋藤直美（米山記念奨学会理事長）、池田修（長泉町長）、竹中康一（東京RC会長）、三木明（RI理事）、小沢一郎（米山記念奨学会前理事長）若林紀夫（米山記念奨学会副理事長）、武田和夫、滝澤功治（米山記念奨学会常務理事）、嶋田康子（第2540地区G）、川嶋幸雄（第2550地区G）、新本博司（第2580地区G）、轟淳次（第2590地区G）、松本耕作（第2610地区G）、安間みち子（第2620地区G）、萩原英生（第2620地区GN）、灘谷和徳（第2700地区G）、灘谷真理（第2700地区G令夫人）、晝田眞三（第2710地区G）、杉岡芳樹（第2780地区G）、諸岡靖彦（第2790地区G）、大久保章宏（第2800地区G）、中村澄夫（第2820地区G）、沼田廣（第2830地区G）

招待者

米山明、米山淳、米山昌子、鈴木香、鈴木繁、鈴木翔、鈴木清香、鈴木遥人、米山隆一、伊臣ゆり子、平山さち子、山室映子、米山宏、米山ケイト（米山家）、山口洋二（三井報恩会専務理事）、山田道男（三井報恩会）、辻本茂、古沢熙一郎、岡田明、川合正、片山博文（三井信託OB）、長澤聖浩、小野佳璋（三井報恩会と彦部村）、桜庭善則、須藤恵悦（三井報恩会と平内村）、佐々木淳（青山学院初等部教頭）、岩本智実（青山学院資料センター）、野崎恭子（ロータリーの友編集長）、岩邊俊久（ロータリー米山記念奨学会事務局長）、西野大介、柴崎由紀（銀の鈴社）

表彰者ご芳名

ご芳名は順不同・敬称は略させていただきます。

米山梅吉賞

渡邊脩助

米山梅吉記念館特別功労賞

長泉町、ロータリー米山記念奨学会、井口賢明

米山梅吉記念館役員功労賞

三枝徳造、木内昭夫、櫻井寛

米山梅吉記念館功労賞

東京RC、第2620地区ガバナー事務所、第2520地区ガバナー事務所、第2530地区ガバナー事務所、第2590地区ガバナー事務所、第2600地区ガバナー事務所、第2640地区ガバナー事務所、第2660地区ガバナー事務所、第2730地区ガバナー事務所、第2760地区ガバナー事務所、第2770地区ガバナー事務所、第2820地区ガバナー事務所、伊豆中央RC、甲府南RC、御殿場RC、静岡RC、静岡西RC、清水中央RC、千歳セントラルRC、東京新宿RC、東京東RC、東京本郷RC、東京ワセダRC、那覇RC、沼津北RC、富士山吉原RC、富士宮RC、北杜RC、松戸RC、三島RC、城山産業、千種会（シェルドン顕彰会）、長泉パーカーライジング株式会社、奈良橋会計事務所、天野肇、安間みち子、伊藤義郎、岩崎逸三、大塩秀樹、

大橋廣治、岡部一輝、岡部泰鑑、岡本一八、小田田浩定、大野数芳、加藤義朋、加藤善己、河本親秀、岸本務、小林聰一郎、駒井英基、佐々木善教、島村俊充、鈴木憲治、鈴木喬、鈴木唯司、末長範彦、杉岡芳樹、杉山千恵、積惟貞、中澤洋、長峯基、永野一好、中村裕司、成川守彦、芳賀裕、原川篤、福永健一、藤林豊明、星野喜忠、本田博己、牧田静二、松宮剛、松村友吉、村橋元、諸岡靖彦、森島庸吉、安平和彦、山田崑久雄、山室宗作、山本良一、吉原久司、米田真理子、米山晴敏、渡邊公平、渡邊脩助、阮允恭

米山梅吉記念館職員功労賞

市川真理

ピンパッチデザイン最優秀作品賞

小林雄一郎

ピンパッチデザイン優秀作品賞

浦上義昭、谷中一成

創立50周年事業特別寄付者ご芳名

数字は地区・名称はクラブ(記名者数)・個人(所属RC)敬称は略させていただきます。(順不同・2019年12月末現在)

2500 足寄・北見東(20)・中頓別・浜中・稚内南
2510 伊藤義郎(札幌)・小樽・千歳セントラル・深川・妹背牛・留萌・伊藤保夫・松倉弘(小樽) **2520** 遠野・18-19ガバナー事務所・大槌・気仙沼南・仙台・菅原裕典(仙台泉) **2530** 加藤義朋(福島)・大橋廣治(福島南)・ガバナー事務所・渡邊公平(いわき勿来)・芳賀裕(福島中央) **2580** 鈴木喬(東京江北)・浦添・東京・東京浅草中央・東京荒川・東京池袋・東京池袋西・東京板橋・東京青梅・東京葛飾中央・東京葛飾東・東京神田・東京紀尾井町・東京小石川・東京麹町・東京江北・東京後楽・東京小平・東京新宿・東京新都心・東京西北・東京セントラルパーク・東京東・東京東江戸川・東京東久留米・東京東大和・東京福生・東京保谷・東京本郷・東京武蔵野・東京武蔵野中央・東京四谷・東京リバーサイド・東京ワセダ・護・那覇・宮古島 **2590** 牛山裕子(川崎大師)・鈴木憲治(川崎麻生)・山室宗作(神奈川)・18-19ガバナー事務所・横浜戸塚・横浜西 **2600** 17-18ガバナー事務所 **2610** 岡部一輝(南砺)・射水 **2680** 井上雅雄(甲府南)・積惟貞(沼津)・安間みち子(浜松ハーモニー)・石田多嘉子(富士山吉原)・岩崎逸三(沼津北)・大貫隆弘(沼津北)・岡本一八(浜松北)・岸本務(甲府東)・杉山千恵(裾野)・星野喜忠(大月)・牧田静二(静岡)・山田崑久雄(熱海南)・山本良一(せせらぎ三島)・19-20ガバナー事務所・熱海南・伊豆中央(24)・伊東西・甲斐の郷(16)・甲府北(22)・甲府市内6クラブ・甲府西・甲府東・甲府南・清水(55)・清水北(27)・清水中央(37)・清水西(43)・長泉・沼津・沼津北・榛南(29)・浜北伎部(17)・浜松中(50)・浜松西・浜松ハーモニー・パワー浜松・袋井(45)・藤枝・藤枝南(51)・富士山吉原(70)・富士宮・富士吉田西(44)・南アルプス・焼津(55)・焼津南・柳場文彦(山梨)・山梨第1グループ **2630** 大浦里美(鈴鹿西)・大垣西(23)・各務原(24)・桑西・鈴鹿西(4)・多治見リバーサイド・津南・中津川(18)・中津川センター(49)・名張・久居(27)・松阪・松阪東・松阪山桜・村橋元(本巢)・本巢(9)・四日市(5) **2640** 有田2000・18-19ガバナー事務所・成川守彦(有田) **2650** 京都乙訓 **2660** 大阪中之島・岡部泰鑑(大阪城南)・吉田悦

治(大阪中央)・溝畑正信(大阪アーバン)・松本進也(大阪北)・泉博郎(大阪帝塚山)・藤本良男(東大阪東) **2670** 佐々木善教(松山北)・今治・大洲・川之江(3)・善通寺(14)・八幡浜・石村浩(川之江)・中村裕司(高知) **2680** 姫路(15)・安平和彦(姫路) **2690** 末長範彦・長家靖(岡山南) **2700** 糸島・杵岐・筑後・直方・福岡平成・豊前西・宗像・門司・若松中央・井手和英(久留米)・博多イブニング(1) **2710** 天野肇(福山)・岩国・岩国中央・岩国西・因島・宇部西(33)・宇部東・江田島・尾道(81)・尾道東・吉舎・呉東・呉南・西条・下関・下関中央・下関西(36)・下関東・周南西・庄原(30)・瀬戸田(5)・竹原(28)・徳山(37)・鞆の浦・萩・萩東・東広島(25)・東広島21(7)・広島・広島安芸(34)・広島安佐・広島北・広島城南・広島西南・広島中央・広島東南・広島西・広島廿日市(3)・広島東・広島南・広島陵北・福山・福山北・福山西(4)・福山丸之内(12)・福山南・福山ロータリーE・防府・防府北・防府南・美祢・三原・柳井西(28)・山口・山口県央・山口南・吉原久司(尾道) **2720** 国東・熊本中央・八代東 **2730** 福永健一(奄美)・奄美 **2740** 長崎東・19-20ガバナー事務所・大村(3)・大村北・唐津東(5)・北松浦・佐賀南・佐賀大和・多久・長崎中央(41)・長崎北東 **2750** 東京飛火野・中澤洋・加藤善己・馬場弘融(東京飛火野)・東京調布むらさき・東京日野・辰野克彦(東京西) **2770** 18-19ガバナー事務所・大塚信郎(上尾)・高窪昭雄(浦和) **2780** 横須賀・杉岡芳樹(相模原)・相模原南・脇洋一郎(茅ヶ崎湘南)・松宮剛(茅ヶ崎湘南) **2790** 千葉若潮・富里・船橋西(32)・松戸・諸岡泰彦(成田)・森島庸吉(船橋西)・島村俊充(松戸) **2820** 17-18ガバナー事務所 **2830** 鈴木唯司(青森モーニング) **2840** 伊勢崎東・桐生赤城・桐生西・館林東・前橋東・田中久夫(高崎) **一般**(株)オオバ・辻本茂・片山博文(オオバ)・ヨネヤマタダユキ・タキザワムセン・スギウラタケツグ・ドウトウカイジ・イマイシンイチロウ・タチバナセツヤ・ドイビデオ・ハヤシショウジ・日本生命・(株)エボラ・サクラハイヤー・みずほ証券・三重銀行・ナンカイホウソウ・ミウラコウギョウ・阮允恭(台湾学友)・林曼麗(講師)・米山記念奨学会)

公益財団法人 米山梅吉記念館 50年のあゆみ

歴代理事長



初代理事長 松井 謙一
(1969.3 ~ 1983.3)



第2代理事長 大河原 二郎
1983.4 ~ 1993.7



第3代理事長 坂本 豊美
1993.7 ~ 1999.8



第4代理事長 内藤 成雄
1999.8 ~ 2008.2



第5代理事長 渡邊 脩助
2008.2 ~ 2017.9



第6代理事長 積 惟貞
2017.9 ~

西暦	元号	年	月	事項
1966	昭和	41		米山梅吉没後20年 米山別邸保存運動の動きが始まる
1967		42	2	「米山別邸保存会」趣意書作成 静岡県東部の沼津・吉原・伊東・三島・沼津北・下田・富士・富士宮・熱海南・伊豆長岡の11RCに募金を呼びかける
			3	第359地区(現2780・2590(神奈川)、現2620(山梨・静岡)) ガバナースレーターに保存運動と募金活動が掲載され全国へ広がる 寄付450万円が見込まれたが、別邸取得には不足 分譲の話進む 方針転換 米山本邸敷地内に別邸の建物を移築し、記念館にする案 計画
			5	米山桂三氏(梅吉三男)沼津北RCで卓話 例会後、クラブ有志と記念館建設について懇談
			6	米山記念館建設準備会発足(別邸保存会改編)
1968		43	2	米山梅吉生誕100年
			5	財団法人米山梅吉記念館建設準備会発足
			10	全国ガバナー会に記念館建設協力要請 趣意書案提示
1969		44	2	財団法人設立登記発起人会開催
			9	記念館完成 開館式 常勤者も電話もない手探りでの運営開始
1970		45	3	米山記念奨学会理事会を米山記念館で開催
1974		49	5	米山記念奨学会 塩原禎三氏他来館、ポール・ハリス月桂樹二世を記念館に植樹
1977		52	2	駐車場用地確保
1980		55	4	米山家より記念館敷地寄付および隣接地譲渡される
1981		56	8	財団法人米山記念館から財団法人米山梅吉記念館に改称
1983		58	9	隣接地に米山梅吉児童公園開園
1988		63	9	米山別邸の門を記念館に移設
1992	平成	4	12	記念館運営委員会発足(第262地区 静岡第2・第3分区、山梨第4分区より選出)
1994		6	9	創立25周年式典 1月理事会にて新館建設決議
1995		7	9	『藍壺』創刊号発刊
1996		7	8	新館建設委員会発足 記念館運営委員会が地区組織に組み込まれる
1998		10	4	新館落成式
2002		14	11	ビチャイ・ラタクルRI会長 記念館公式訪問 記念講演・植樹・石碑除幕式
2003		15	4	館報創刊 ビチャイ・ラタクルRI会長来館特集号
2004		16	9	創立35周年式典 講演「富士山は恋ごろの山」講師 文化勲章受章者・詩人 大岡 信氏
2005		17	4	創立35周年記念誌『超我の人 米山梅吉の覚音』発刊 編者 井口賢明氏(沼津北RC)
			9	記念事業「還ろう米山梅吉の原点に」シンポジウム開催
2006		18	9	内藤成雄理事長同期会の碑「友達になろう」除幕式
2008		20	3	道路区画整理により記念館の長屋門取り壊し
2009		21	9	創立40周年式典 米山梅吉俳句集『藍壺俳句』発刊 編者 井口賢明氏(沼津北RC)
2010		22	4	米山文庫・子ども図書館 開館(旧記念館)
				記念館創立40周年・長泉RC創立25周年・長泉町制施行50周年事業
2011		23	7	「財団法人」を「公益財団法人」に改組
2014		26	9	創立45周年式典 講演「三井報恩会について」(勲三井報恩会 監事 藤井 健氏 講演「三井報恩会と特定振興村彦部村を考える」考える会会長 長澤聖浩氏
				米山梅吉肖像画(白瀧幾之助 画)三井信託名誉顧問 藤井 健氏より原画の寄贈
2018		31	2	米山梅吉生誕150年
2019	令和	元	7	生誕150年・創立50周年記念『米山梅吉ものがたり』発刊(銀の鈴社)
			9	創立50周年式典 講演「己欲立而立人己欲達而達人—米山梅吉の価値観について」林 曼麗氏 映像でつづる米山梅吉の足跡「米山梅吉の覚音」 ひとり語り「魁の人 米山梅吉 あなたへ」大塚良重氏